

氏名	山 本 光 昭
学 位 の 種 類	医 学 博 士
学 位 授 与 番 号	博 甲 第 875 号
学 位 授 与 の 日 付	平成 2 年 9 月 30 日
学 位 授 与 の 要 件	医学研究科社会医学系衛生学専攻 (学位規則第 5 条第 1 項該当)
学 位 論 文 題 目	わが国における悪性新生物の受療率と死亡率との関連 一 部位別、性・年齢階級別年次推移一
論 文 審 査 委 員	教授 緒方正名      教授 木村郁郎      教授 折田薫三

### 学 位 論 文 内 容 の 要 旨

がんに対する保健・医療サービスの効果を科学的に評価する目的で、部位別、性・年齢階級別に厚生省の患者調査による受療率と人口動態統計による死亡率とを用いて、統計学的に分析した。

その結果、疾病量としての患者数の正確な把握には、入院受療率と外来受療率とを合わせた総受療率よりも入院受療率を用いることの妥当性が認められた。また、がんの受療率及び死亡率の年次推移は、部位別、性・年齢階級別に特徴があり、これらを見無視しての全がんの年次推移の傾向では、がんに対する保健・医療の正確な動向を把握したことにはならないと考えられる。次に、入院受療率と死亡率との関連をみると部位別で異なっており、胃がんは治療効果が上がっており、肺がん、男の肝がん、乳がんは治療効果が上がっていないことが明らかとなり、保健・医療サービスの効果を評価し得た。

### 論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

がんに対する保健・医療サービスの効果を評価する目的で、厚生省の患者調査による受療率と、人口動態統計による死亡率により分析した。そして患者数の把握には、総受療率より入院受療率の妥当性があること、がんの受療率及び死亡率の年次推移は、部位・性・年齢階級に特徴があり、がんに対する保健・医療の動向の把握に必要であること、入院受療率と死亡率の関連より、保健・医療サービスの効果を評価し得る等、価値ある研究である。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。